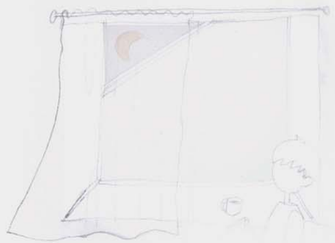
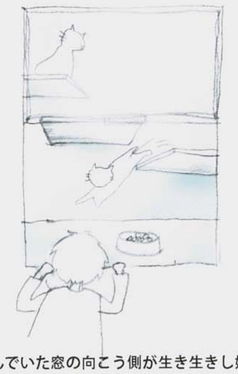
境界を量す光の塀

コンセプト

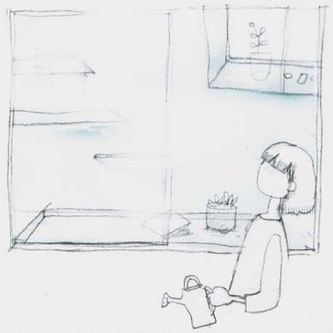
都市部にある住宅やミニ開発による住宅間によくみられる狭い狭い隙間、日中光が入らず使われることもない、この何物でもない空間を利用して既存の都市環境、住環境をよくしたいと考えました。ガラスでできた厚い塀をこの狭い住宅間に挿入します。すると、ガラスによる光の拡散でこれまで日中でも真っ暗だったこの隙間は明るく照らされ住居内に淡い光を届けます。蓄光ガラスに日中ため込まれた光は光のスリットとなって優しく夜道を照らします。ファイアライトを用いることで、もしもの時の隣家への延焼を防ぎます。今までほとんど開けることのなかった隣地側の窓を開けるとそこにはガラスでできた箱や棚が窓と連動して設えられ、出窓のように空間を拡張します。敷地境界上のこの空間は透明で光に満ち、これまでただの閉じた死んだ窓であったものの先に意識を導き、両側それぞれの住居の生活が滲み出すことで住居間の境界を曖昧にし、希薄になりつつある地域住民との関係を築くきっかけとなるかもしれません。



夜、月明かりのようにぼんやりと光るガラスの塀

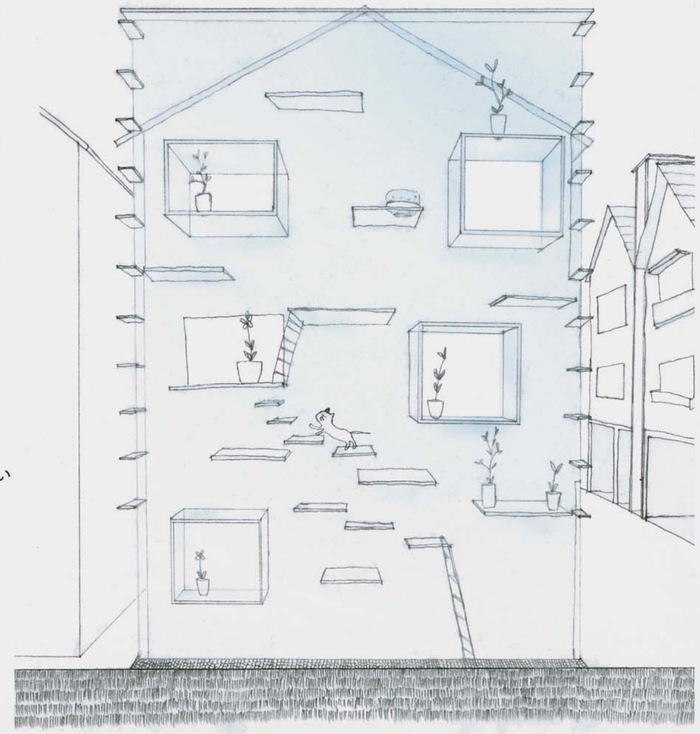


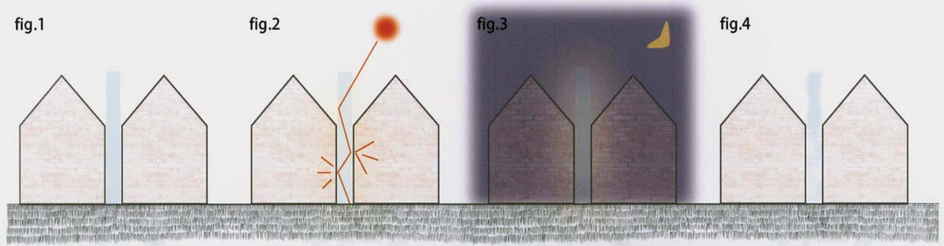
死んでいた窓の向こう側が生き生きし始める。



光の温室として植栽豊かに手を加えてゆく

いつしか窓を通して井戸端会議がはじまるかもしれない





ダイアグラム

fig.1　住宅と住宅の間にある狭い狭い隙間にガラスの塀を建ち上げる。

fig.2　屋根の高さまで突き出た塀は太陽光を内部で拡散させ隙間の地上付近まで光を導く。

fig.3　日中、蓄光ガラスに貯めた光や家庭からの光が滲みだし夜道をほのかに照らす。

fig.4　ガラスの塀内へ出窓のようにスラブやボックスが張り出し住宅の内部を拡張させる。